

【評定の基準】

A:全て◎ B:全て○以上 C:1つでも△がある

【アンケートの評価基準】

◎:8割以上が肯定 ○:6割以上が肯定 △:6割未満が肯定

【アンケート】

4 たいへんよい 3 よい 2 あまりよくない 1 よくない

項目	小項目(重点目標)	評価指標及び目標値	評定	評価資料	評価	アンケート結果				学校による考察・改善方策	
						4	3	2	1		
知・徳・体を育てる教育の推進	1 確かな学力を育てる教育の推進	(1) 教師は、学習課題を明確にし、学力向上を目指して、一人一人に応じた指導を中心に「分かる授業」の実践に努めているか。	A	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート	◎ ◎ ◎	75% 59% 100%	25% 36% 0%	0% 5% 0%	0% 0% 0%	昨年度同様、高評価を得られた。各教科等の学習では、児童が主体的・対話的に学ぶ学習過程を大切に、学力の向上を目指している。また、基礎的な学習内容の定着を図るために、年間を通してチャレンジプリントに取り組んでいる。チャレンジプリントでは、過年度に学習した内容も含め、自分のペースで復習を進められるようにしており、全教職員で児童の学習内容の定着を確認をしたり、朝会で表彰したりして、意欲を持続させながら学力向上を目指している。	
		(2) 学校は、家庭と協力し、子供たちに家庭学習の習慣を身に付けさせているか。	B	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート	○ ◎ ◎	38% 50% 50%	38% 32% 50%	25% 14% 0%	0% 5% 0%	0% 0% 0%	評定はBであるが、保護者の評価は昨年度より高くなっている。特に4の評価の割合が高い。その反面、児童の評価は下がっている。自ら学ぶ意欲の向上と学習・生活習慣の定着を目指し、家庭自主学习ノートの取組も継続している。自主学习への取組は進んでいるが、内容面での高まりを目指し、お互いの自主学习ノートを見合う機会を取り入れるなど、意欲の向上を目指してきた。今後は、児童や保護者の意識改革を更に進める啓発活動を工夫し、学校と家庭とが連携して学習習慣の定着と向上を図りたい。
		(3) 読書等を通じて、文章を読む習慣が身に付いているか。	B	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート	◎ ○ ◎	50% 35% 67%	33% 27% 33%	13% 27% 0%	4% 11% 0%	0% 0% 0%	評定はBであるが、児童及び教職員の肯定的評価が高くなっている。児童が目的に応じて本を手にとることができるよう、各学級、自習室及びびラウンジに図書を配置している。また、発達段階に応じて読書目標ページ数を設定し、達成者に多読賞を授与したり、隙間読書を推奨したりすることで、児童の読書意欲が高まっている。今後は、家庭でも読書する環境が整うよう働き掛けていきたい。
	2 豊かな心を育てる教育の推進	(1) 学校、家庭は、友達や先生、地域の方々にも心こもった挨拶ができる児童を育てているか。	A	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート 地域住民アンケート	◎ ◎ ◎ ◎	83% 81% 75% 87%	17% 14% 25% 13%	0% 5% 0% 0%	0% 0% 0% 0%	0% 0% 0% 0%	全体的に、昨年度同様評価が高くなっている。気持ちのよい挨拶ができているということで、地域の方や来客の方に、挨拶についてほめていただくこともある。気持ちのよい声掛けをしてくださる地域の方も多く、児童にも大きな励みになっている。しかし、学校外やとっさの場面での挨拶には課題がある。挨拶が自然にでき、愛顔を広げていけるように指導を工夫し、さらに充実させたい。
		(2) 相手の立場を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性が育っているか。	A	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート 地域住民アンケート	◎ ◎ ◎ ◎	50% 67% 75% 64%	42% 33% 25% 36%	8% 0% 0% 0%	0% 0% 0% 0%	0% 0% 0% 0%	少人数の特性を生かし、ほとんどの活動を異年齢集団で行っている。特に今年度は1年生が4名入学したこともあり、上級生の下級生への関わりがいろいろな場面で見られ、全校的に温かい雰囲気醸成された。多くの活動後の感想発表でも他者の頑張りに対する認めや、手助けへの感謝が述べられる場面が多く見られた。しかし、様々な学校生活場面で、自己中心的な言動からトラブルになることもある。今後もよりよい人間関係づくり、社会性の育成に向け、あらゆる機会を生かして適切な指導を心掛けていきたい。
		(3) 地域の人や自然など、自分の周りの事物に対して、感謝の気持ちをもって関わろうとする心が育っているか。	A	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート	◎ ◎ ◎	88% 77% 100%	13% 23% 0%	0% 0% 0%	0% 0% 0%	0% 0% 0%	学校行事、縦割り清掃、全校遊び等で縦割り活動(異年齢集団活動)を多く行っている。これらの活動では、思いやりのある言動が随所に見られる。また、地域に学ぶ活動や学校行事等を通して、身を持って感動する体験を積んでいる。今後も道徳科を中心として教育活動全体を通じて、相手を思いやる心を持つことの大切さや、感動する心を持つことの清々しさを実感させながら、豊かな人間性を育成していきたい。
	3 健やかな体を育てる教育の推進	(1) 自分の心身の状態に関心を持ち、健康を保つために食事、早寝早起き等に留意した規則正しい生活を実践しているか。	A	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート	◎ ◎ ◎	42% 64% 0%	46% 27% 100%	13% 9% 0%	0% 0% 0%	0% 0% 0%	今年度も児童の欠席が少なく、心身の健康状態が良好であることが伺える。健康の大切さに関して、「早寝・早起き・朝ごはん」の定着に向け、定期的に生活の振り返りを行っている。帰宅後、習い事やゲーム、動画視聴等で就寝時刻が遅くなる傾向にある児童もあり、機会を捉えて生活状況の改善に向け指導している。児童の健全な生活環境づくりには保護者との連携が欠かせない。家庭における規則正しい生活が実践できていないと感じている保護者、家庭もあり、引き続き啓発活動を行い、保護者の意識改革、児童の生活改善への意欲向上につなげるようにしたい。
		(2) 外遊びや業間マラソン、なわとびなどで、めあてを立て、運動を楽しむとともに体力の向上を図ろうとしているか。	A	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート	◎ ◎ ◎	50% 67% 100%	33% 29% 0%	17% 5% 0%	0% 0% 0%	0% 0% 0%	業間マラソンやなわとび、ピカイチ体育など、全校で運動に親しむ機会を継続して設けている。校内マラソン大会に向けて11月から約3か月間の練習期間を設けることで、冬休中に家庭でマラソン練習に励む児童もいた。また、児童一人一人に応じた目標を設定し、体育科の学習や休み時間を活用して支援を継続することで、児童の意欲化が図られている。今後も児童の達成状況等について教職員で情報交換するとともに、活動内容の検討を定期的に行うなど、生涯を通じて運動に親しむ児童を育てていきたい。
		(3) 身の回りの整理整頓、正しい言葉づかい、時間を守ることなど、基本的な生活習慣が身に付いているか。	A	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート	◎ ◎ ◎	46% 41% 0%	46% 50% 100%	8% 9% 0%	0% 0% 0%	0% 0% 0%	チャイムの合図に合わせて学習が始められるように、休み時間に次の学習の準備を整えておいたり、チャイムの合図2分前に着席したりするなど、各学級で児童の発達段階に応じた指導を行っている。言葉づかいについては、子供同士の会話から、荒っぽい言葉づかいを心配する声も届いている。子供は、大人やテレビ等の言葉づかいに影響を受けるものである。保護者・教職員ともに普段の言葉づかいを見直し、温かい言葉に包まれたよりよい環境づくりに努めたい。

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	評価資料	評価	アンケート結果				学校による考察・改善方策
						4	3	2	1	
生徒指導・人権・同和教育・特別支援教育	4 生徒指導	(1) 子どもは親へ、親は子へ、積極的に話しかけ、互いの話を十分に聞いているか。	B	児童アンケート	○	46%	25%	25%	4%	保護者は、積極的に話しかけているという評価が多数を占めているが、児童の29%は、積極的に話しかけていないという評価であり、昨年度の結果と比べても低い傾向にある。児童の習い事や保護者の仕事等により、家庭でのコミュニケーションの時間が減少する傾向にある現在では、親子がコミュニケーションを取る時間の確保が重要である。同じ空間にいても、それぞれがスマホを触っていたり、ゲームをしていたりしては、コミュニケーションが取れているとは言えない。各家庭でもう一度親子のコミュニケーションについて振り返ってみたい。 「みどりの会」は、PTA役員、学校運営協議会委員、少年補導員、民生児童委員、その他関係諸機関の方々に参加をいただいて、「いじめ・不登校・非行等の防止や対応」「学校内外における安全の推進」等について、課題の解決や把握を目的として年間2回開催している。今年度「第1回みどりの会」を5月に開催し、通学路や校区外通学の様子と、児童が取り組んでいる「みどりのおくりもの」について学校から説明をした。今後も積極的に地域との連携を図り、児童の健全育成に努めたい。 学校生活の中では、各教科や様々な体験活動の場で発表の機会を設け、互いが認め合うことで存在感や達成感を味わわせるよう意識している。互いを評価し合いよいところを見つける機会を増やすことで、他者を見つめる目も育ってきている。しかし、ささいなことでトラブルになる場面も少なくない。相手のよさを認めながら、よりよい翠小の仲間として児童全員が安心して生活できるように、しっかりと支援していきたい。 日頃から児童が取り組んでいる学習や遊び、生活上困っていることを話題に挙げ、教職員全員で児童理解を図っている。また、校内委員会を年2回実施するとともに、毎月実施している職員会議では、児童の様子について情報交換する時間を設けている。教育相談員や特別支援教育巡回相談員、スクールカウンセラーとも連携を図りながら、児童一人一人の成長のための支援を継続していきたい。
				保護者アンケート	◎	64%	36%	0%	0%	
	(2) 学校は、「みどりの会」などで地域と生徒指導上の情報を共有し、連携して生徒指導にあたっているか。	A	教職員アンケート	◎	100%	0%	0%	0%		
	5 人権・同和教育	(1) 自分のよさや他人のよさを認め合い、支え合う仲間づくりができていますか。	A	児童アンケート	◎	71%	25%	4%	0%	
				保護者アンケート	◎	71%	29%	0%	0%	
教職員アンケート				◎	100%	0%	0%	0%		
6 特別支援教育	(1) 学校は、校内委員会を適宜開き、教職員の共通理解と協力体制のもと、適切な支援ができていますか。	A	教職員アンケート	◎	100%	0%	0%	0%		
安全管理・施設設備	7 安心・安全な学校づくりの推進	(1) 学校は、校内及び通学路の安全点検や避難訓練を適切に実施し、地域とも協力して児童の安全確保に努めているか。	A	教職員アンケート	◎	100%	0%	0%	毎月安全点検を実施し、安全面で改善が必要なもの(箇所)に関しては、速やかな対応を心掛けてきた。通学路の点検は、登校指導や下校指導時に実施するとともに、行政や警察、交通安全協会等とも連携し、より多くの視点で点検を行っている。避難訓練は、火災と地震の訓練を年間4回行い、予告なしの訓練も実施する予定である。今後も、災害発生時(学校外も含む)に自分で考えてより安全な行動が取れるように、児童の危機意識を高めていく必要がある。 教材や教具は、備品点検を定期的に行い有効活用するとともに、不足している教材等の購入を進めている。本校は少人数のため、ICT機器や理科の実験用具など、少ない人数で使える環境になっている。今後も誰もが使いやすい環境を整え、不足しているものの購入を進めるなど、工夫していく必要がある。	
				保護者アンケート	◎	85%	10%	5%		0%
	(2) 学校は、施設・設備、教材・教具が効果的に活用され、環境整備に配慮しているか。	A	教職員アンケート	◎	100%	0%	0%	0%		
			地域住民アンケート	◎	75%	25%	0%	0%		
8 教職員の資質と指導力の向上	(1) 教師は、授業改善に努め、その都度反省・評価をし、授業に生かそうとしているか。	A	教職員アンケート	◎	100%	0%	0%	0%		
保護者・地域住民との連携	9 開かれた学校づくりの推進	(1) 学校は、公民館や老人会など、関係団体との連携に努めているか。	A	保護者アンケート	◎	90%	10%	0%	0%	児童一人一人の学力向上、生きる力の育成を目指し、校内研修や授業研究に取り組み、指導方法の工夫や授業改善に努めている。研究授業を行う際には、毎回全教職員で話し合いを行い、互いの授業力が高まるように研修に励むなど、授業改善に取り組んでいる。今年度も、理解力や表現力の向上を目指し、読書活動の推進や朝ドリルの充実を図ってきた。現在、2学年ごとの複式学級で、児童の学力差や発達段階に応じた指導に関する課題も多いため、より効果的な指導の在り方について今後も研究を進める必要がある。 いろいろな学校行事で地域の方々や公民館などに案内を出し、協力を依頼している。いつも多くの方々から本校の教育活動のために協力してくださっている。地域の方の支援を受け、いつも充実した学校行事を実施することができ感謝している。また、ほたる祭りや公民館祭りなど、学校も地域行事に積極的に協力することで、児童には「ふるさと翠」を大切にしようとする心が育っている。地域の方々温かく見守ってくださる連携体制は、今後も引き続き維持し、発展させていきたい。 今年度もホームページを随時更新し、翠校の魅力や翠っ子の活動の様子を紹介、発信している。保護者だけでなく地域や外部からの反響も大きい。学校からも毎月発行し、地域の方々に回覧することで学校の取組を紹介している。今後も、伝統ある翠校の翠力(みりょく)を発信し、校区外通学や移住者の児童が増えるように努めるとともに、地域全体の力となるように努めたい。 児童の個人情報の取扱いについては、校内で取扱い規定を作成し、慎重に対応している。児童名や写真などの個人情報に関しては、年度当初に各保護者から同意書の提出を受けた上で、ホームページ等で公開している。報道機関や広報誌等の外部機関において個人情報が一部公開されるときには、その都度事前連絡し了承を得るようにしている。緊急時対応のため預かっている保護者の電話番号やメールアドレスについて、今後も管理を徹底していきたい。 今年度、学校運営協議会が発足し、地域学校協働活動推進員と綿密に打合せを行いながら年2回のふるさと交流会や様々な体験活動を行った。2学期の校外学習では、毎年恒例の地域巡り(みどりカントリーアドベンチャー)を行った。翠地区には、まだまだ多くの自然や文化、人の財産があるので、今後も児童に関わるテーマを設定し、地域学校協働活動推進員と相談しながら、体験活動の充実を図ってみたい。
				教職員アンケート	◎	100%	0%	0%	0%	
				地域住民アンケート	◎	75%	25%	0%	0%	
		(2) 学校は、学校(学年)だより、保健だより、PTA広報紙、ホームページなどで、学校の情報を積極的に発信しているか。	A	保護者アンケート	◎	86%	14%	0%	0%	
				教職員アンケート	◎	100%	0%	0%	0%	
				地域住民アンケート	◎	88%	13%	0%	0%	
	(3) 学校は、個人情報を適切に管理するとともに、その公開に対しては十分に配慮しているか。	A	保護者アンケート	◎	77%	18%	0%	5%		
			教職員アンケート	◎	75%	25%	0%	0%		
			地域住民アンケート	◎	79%	21%	0%	0%		
	10 地域に根ざした特色ある教育活動の推進	(1) 学校は、地域の自然や文化、人材など地域資源を生かした体験活動を進めているか。	A	保護者アンケート	◎	80%	20%	0%	0%	
教職員アンケート				◎	100%	0%	0%	0%		
地域住民アンケート				◎	81%	19%	0%	0%		
<p>項目ごとに見ると、「確かな学力を育てる教育」の、「家庭学習の習慣」と「文章を読む習慣」の項目の評定がBとなっている。この二つの項目がB評定なのは、毎年である。「家庭学習の習慣」の項目では、保護者の評価が昨年度より上がっているようだが、児童の自己評価は下がっている。学校と家庭が一体となり、改善方を一つ一つ工夫しながら取り組んでいただきたい。来年の成果を期待している。「文章を読む習慣」の項目は、児童及び教職員の肯定的評価が高い一方で、保護者の評価が低い。学校では、様々な対応を考えていただき、読書への関心が高まっている。しかし、家庭では習い事等で読書をする機会が確保できていないようである。評価を上げることのみを考えるのではなく、最善の方法を学校で検討していただきたい。</p> <p>「子は親へ、親は子へ、積極的に話しかけ、互いの話を十分に聞いているか。」の項目の評定がBで、保護者と児童の回答にずれがあり、児童の方が低い評価である。安定した親子関係があつてこそ、子供は自分のことを大切に思うことができると考える。高学年になると、家の人との会話が減ってきている児童もいる。親は、子供の話になぜかたり、微笑んだり、最後まで聴いたり、心を傾けて聴くようにし、子供が困ったときに何でも相談できる信頼関係を毎日の積み重ねで築いていただきたい。</p> <p>今年度からコミュニティ・スクールがスタートした。学校・家庭・地域がどのように子供たちを育てていくのか、ビジョンに多少のずれを感じる。地域の方がたくさん来てくれたらいいと捉えるのか、少数でも子供たちと深く関わってくれるのをいいと捉えるのか。子供たちのよりよい成長のために、今後、学校運営協議会やPTA役員会などの場において、更に話し合いを重ね、ビジョンを共有していく必要がある。</p>										
<p style="text-align: center;">学校運営協議会委員の総評</p>										